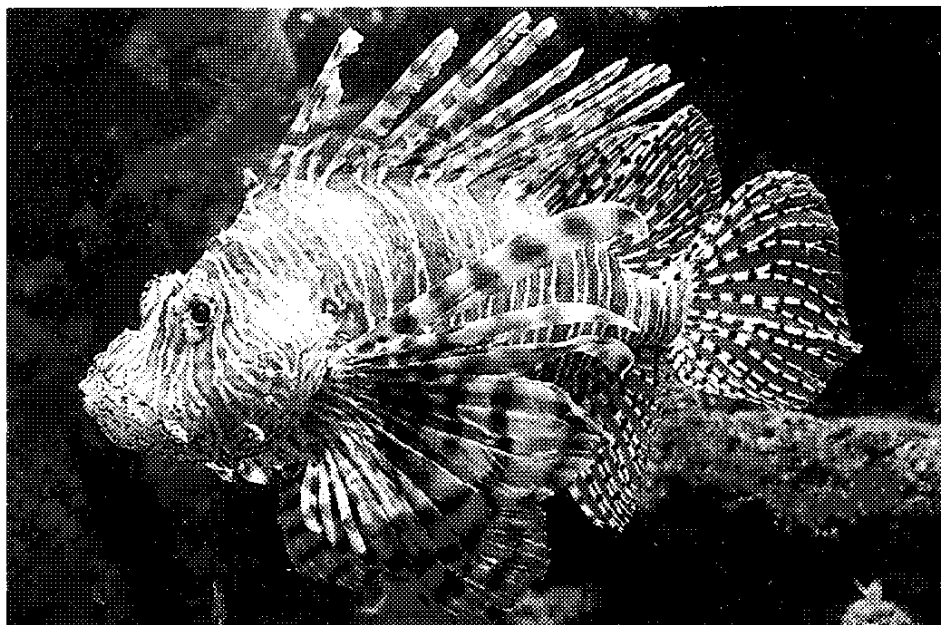


## 駿河湾 ちよひと底まで

英語名はライオンフィッシュ。背、胸の大きなヒレを広げると、百獣の王のたてがみのよう。その胸ヒレは、小魚を狭い場所に追い詰めるのにも役立つらしい。さらにヒレには毒腺もある。先端

### ハナミノカサゴ



## 大きなヒレ 獲物追い詰める

に触れると毒液が発射され、痛みは半端ではない。ヒレの機能は多様だ。

暖海性で、ここ駿河湾あたりが生息の北限のよう。もっと北の海にも広く分布するミノカサゴとそっくり。違いは尾びれで、ミノカサゴは模様なしの透明なのに、こちらはゴマをふったような黒っぽい模様が入る。水族館でもよく同居しているので、目を凝らしてみるといい。

そんな水槽で以前、繁殖を目撃する機会があった。時刻は見学者もいない午後5時すぎ。実際の海でも日没後が産卵時間だ。

間際になるとメスのおなかはパンパンに。オスは膨らんだ腹めがけて、体を震わせながらすり寄ってくる。そうして、気が合えば、互いが頭を上に出ち上がったような姿勢になって、腹部と腹部をくっつけ合う。何度も繰り返してから、いよいよ産卵。勢い良く上昇して水面近くでぱっと別れると、またたく間にオスの精子で辺りが白く濁ってしまった。

面白いことに、同居していたミノカサゴの産卵も同時刻だった。人の目では区別も容易でない両者だが、相手を取り違えることもない。自然の不思議に驚く一瞬だった。

(東海大学海洋科学博物館・前学芸員 柴田勝重)